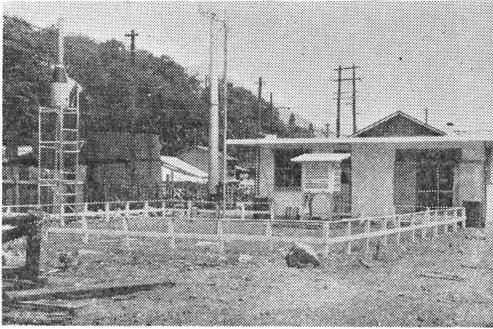
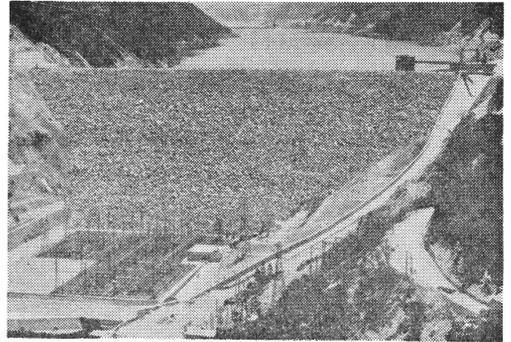


地方だより

高山測候所一庄川気象通報所



(1) 庄川通報所



(2) 御母衣ダム（電源開発）

“日本一のロックフィルダム”として有名な御母衣ダムから約1.5km下流の地点に当通報所がある。高山から直距離30km程である。3つの峠越えをして、乗物で3時間で到着する。

電源開発工事は現在白山の中腹に舞台が移り、この辺りはおぼろ基地としての役割を果たしている。最盛期ほどの騒々しさはなくなった。しかし、工事現場特有の荒々しい事件はいまでもたまには起る。工事前は、わずかに農家が数戸あるにすぎなかったこのへん地にも、現在は4人のお巡りさんが駐在している。「これでも随分静かになったんですよ」とはその述懐である。

パチンコ店、バー、鮮魚仕出し、これらが通報所の向う軒の顔ぶれだ。ほかにいろいろな店が軒を並べているが、なかには工事場の移動とともに庄川をさかのぼって来た魚のようなものもある。

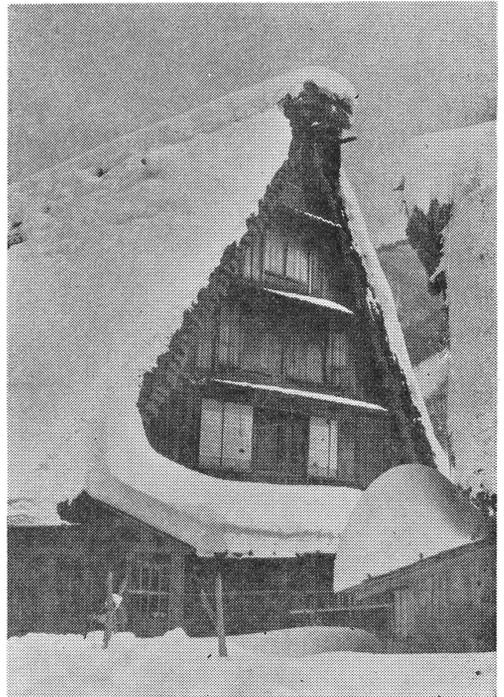
人の出入りの激しいこういう土地では、主の転勤においてけぼりをくうワン公が次第に増してくる。あちこちの倉庫の床下は彼等にとっては暖かいねぐらで倉庫の多い当所付近もワン族密度は相当高い。人間に危害は与えないが露場を荒されるのには閉口する。丹精こめて植え付けた芝が根を張り始め、除草に、撒水にわが子のように育てているのだが、彼等はここを絶好のグラウンドとし、また心地よいW.C.として常用する。こうして、せっかくながら根ずきはじめて芝をかきまわし、無惨な姿に露場を荒す。愛らしいがまたにくい敵である。

この付近はダム地点の適所だけに谷が狭く、局地風が相当強い、これを、土地の人は“牧谷の貧乏風”と呼ぶ。昨年台風では、発電所の巡視船がロープを切られて漂流し、波にもまれて沈没した。山中でも船のそう難が発生する、貧乏風が吹くと、発電所から“通報所さん、波浪注意報も願います”と冗談も出る。冬になるともっと貧乏風に悩まされる機会も多いだろう。

“夏は涼しくていいでしょう”とよくいわれるが、なかなかどうして、今年の7月には35°Cまでのぼったことが2回もあった。しかし、暑いのは日中だけで、夕方ともなると“やはり涼しいね”ということになる。

通報所の近くには、白山国定公園をはじめ、合掌造りの集落地、天下晴れてどぶろくが飲める奇祭どぶろく祭り等、なかなか豊富な観光資源もある。人里離れて水理気象業務に励む私達のこれからの生活を、これらが折にふれなぐさめてくれることだろう。

(11月25日 山下善雄記)



(3) 合掌造りの雪景色